

会議録

会議の名称	平成30年度第2回あま市社会教育審議会
開催日時	平成31年2月22日（金）午前10時から
開催場所	美和歴史民俗資料館 1階研修室
議題	1 平成30年度生涯学習事業中間報告について 2 平成31年度生涯学習事業計画（案）について
会議資料	会議資料（PDF） ・資料1 平成30年度 社会教育事業報告 ・資料2 平成30年度 社会体育事業報告 ・資料3 平成30年度 文化振興事業報告 ・資料4 平成31年度 社会教育事業計画（案） ・資料5 平成31年度 社会体育事業計画（案） ・資料6 平成31年度 文化振興事業計画（案）
公開・非公開の別 （非公開の場合はその理由）	公開
傍聴人の数 （公開した場合）	0人
出席委員	寺尾すみ子、近藤哲夫、大西純滋、木全孝、石塚建伸、 林 弘樹、金子真奈美、村上千代子、佐藤典子
欠席委員	3人
事務局	（教育委員会）松永裕和教育長 （教育部）三輪久夫教育部長 （事務局）鎌倉崇志生涯学習課長、徳永増美津スポーツ課長、 山田眞由美生涯学習課主幹、近藤 博生涯学習課主幹、 堀田拡二スポーツ課主幹、担当職員4名
<p>会議の経過</p> <p>1 平成30年度生涯学習事業中間報告について 社会教育事業報告について、社会教育担当より報告 社会体育事業報告について、スポーツ担当より報告 文化振興事業報告について、文化振興担当、社会教育担当より説明</p>	

2 平成31年度生涯学習事業計画（案）について

社会教育事業計画（案）について、社会教育担当より説明

社会体育事業計画（案）について、スポーツ担当より説明

文化振興事業計画（案）について、文化振興担当、社会教育担当より説明

（会長）

平成31年度生涯学習事業計画（案）について、承認していただけますか。

（委員）

承認。

<主な質疑応答>

（委員）

「シルバーカレッジ」について 今年度は回数が25回、定員が45名。次年度は回数が21回となっているが、意図は。

（事務局）

回数については、いろいろな意見を聞いていると、少し多いため参加できないという声があり、授業の日程を、合間をあげることで出やすくなればと減らしました。

定員については、3年目で定員を割ったため、どれくらいニーズがあるのか、一度定員を減らして確認してみようと思い、このような形にさせていただきました。

（委員）

「あま発未来創造塾」について 若者世代の活力を育てる、意見を聞くということで、期待しております。指導者が教え込むような古いイメージがあるが、若者をコーディネートして育てていくような方法がいいと思うが。

（事務局）

若い方を、公募で集めるのが一番いいのですが、まず成人式の実行委員の方たちにお話をさせていただき、年間5、6回ある実行委員会の冒頭15分ほど時間をいただき、あま市に興味を持っていただけるよう、市の現状、タイムリーな話題を提供し、最後に市長との意見交換の場を設け、市の未来を共に考えていきます。

（委員）

「パンづくり」について 前回は、三回で定員24名、申込が30名。次回は四回で定員24名。これはどういうことか。

（事務局）

一回ずつではなく、三回で一つの講座ですので、そこに対して24名の定員としております。30名というのは申込の数で、実際に受講していただいたのは、24名です。

（委員）

「社会教育講座」について 30年度は毎回いろいろなことがあったが、31年度が三つに減っているが理由は。

（事務局）

好評だった三つの講座を、2回ずつの組合せにさせていただきました。

(委員)

甚目寺総合体育館で、「全国中学生相撲大会」が行われるということで、費用もかかると思いますけど、本当にいいことですね。頑張って協力してください。

(委員)

蜂須賀グラウンドの埋立ゴミについて 蜂須賀だけではなく、ニツ寺グラウンドも同様に、下に埋まっておると思うが、下がめくれてきてから何とかするのはなく、点検をこまめにして、被害が出る前に対応できるようになっておるか。

(事務局)

鷹居グラウンドもゴミの埋立地を整備してできたグラウンドです。日常的に点検を行い、また利用日誌で利用者からの報告を受け、対処できるようにしています。ニツ寺親水公園のグラウンドは都市計画課の管理ですが、グラウンドゴルフさんが使われておりますので、情報を共有して対処するようにします。

(委員)

「小学生の夏休みスポーツ教室」について 七宝小だけがフットサルとなっておりますが、甚目寺と美和は、何をされるのか。七宝小の子は、フットサルしかできないのか。

(事務局)

甚目寺総合体育館と美和公民館で行われる分については、ドッジボールを行います。美和、甚目寺の方もフットサルをやりたいお子さんは、七宝総合体育館の講座に申込をいただければ、参加できます。

(委員)

新聞・テレビで、携帯電話、スマートフォンを小中学校の現場へ導入、持込を認めるという記事が出ておるが、防災目的、子どもの安全確保という意味があると思うが、それ以外に大きな問題を含んでおると思う。あま市ではどうか。

(教育長)

基本的には教育委員会、学校教育課を中心に「おやじの会」の意見も聞いて、検討していきますが、日常の学校生活において携帯電話は要らない。というのが原則です。ただ、子どもたちが携帯電話を持ち歩くことによって、携帯電話、スマートフォンを通じてのいじめがあったり、スマホ中毒というか、生活のバランスを崩している原因になっているのも事実ですので、現状を把握しながら、方向を決めていきたい。

(委員)

一つだけお願いがあります。会議の中で、「ほかの市町村を見てみると」とか、比べるところがある。「どこどこを参考にしたら」とか。そこであま市も10年になるのだから、発展的な市にしていかなければ。何もかも追従するのではなく、あま市独自の、あま市はあま市なりの独創性を持ってほしい。

以上